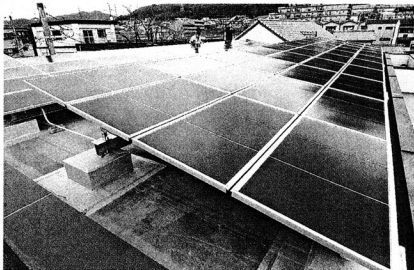


大宅児童館の屋上に設置されたソーラーパネル。発電のほか、環境に優しい活動を紹介する際にも活用する（京都市山科区）



太陽光の大切さ知って

山科の大宅児童館

京都市山科区の大宅児童館にこのほど、太陽光を利用して発電するソーラーパネルが完成した。館を運営する社会福祉法人大宅保育園の活動の一環。同園で電気を利用するほか、地域の人たちにも見てもらい、地元の環境学習に役立てるといふ。

大宅保育園では、廃や作りなどを通して、油やペットボトルなど子どもの環境意識の向上に回収活動のほか、アサガオやゴーヤーで作るグリーンカーテン、ソーラーパネル設置は、同市下京区のNP法人「きょうとグリ

ンファンド」と連携して設置した。同法人の太陽光発電設備「おひさま発電所」の設置事業を生かし、昨年11月から工事を進めていた。

児童館の屋上にはパネル81枚が並ぶ。1日に27キロワット時を発電でき、余った電力は電力会社に売ることができ

る。園内には、現在の発電量と1日分の積算発電量、二酸化炭素の排出削減量を数字で表示する板も付けた。児童館や保育園を訪れる人にも公開し、電気ができる仕組みなどを説明するといふ。

保育園長で児童館長の山手重信さん（63）は「環境保全の取り組みを身近に感じ、エネルギーの大切さを知ってほしい」と話す。

（山田修裕）

ソーラーパネル設置

環境学習に活用